

進捗報告書（資金分配団体）

事業名:	福岡子ども若者、困窮者応援笑顔創造事業
資金分配団体:	一般社団法人SINKa
実行団体数:	6団体
実施時期:	2021年7月～2022年3月
事業対象地域:	福岡県
事業対象者:	①子ども若者 ②ひとり親・生活困窮者 ③社会的養護入所者・退所者 ④発達障がい者 ⑤子育て中の親とその支援者

Version 1.0

日付: 2021年1月15日

I. 事業概要

事業概要
コロナ禍で影響を受けている子ども若者、困難を有する方の生活困窮、学習格差、社会的孤立に対して、居場所・交流の場を提供する。少人数化（多数回化）、食支援、オンライン学習支援・体験、コミュニティ構築を通じて人が繋がる居場所と出番づくりを創出し、子ども若者等の孤立による負の連鎖を断ち切り、心の貧困を解消する。多様なテーマコミュニティ形成により誰もが主役になれる、やりがいと希望を持って生活できる社会の実現に向けて、斜めの関係を重視した社会的包摂によりコロナ禍の急激な環境変化に戸惑う人達を救うためのスタートアップを図る。

II. 進捗報告の概要

総括
コロナ禍で影響を受けている子ども若者、困難を有する方の生活困窮、学習格差、社会的孤立に対して、居場所・交流の場を提供するため6団体を採択し、食支援、オンライン学習支援・体験、コミュニティ構築を通じて対象者の孤立・孤独解消につながる活動を行っている。子ども若者に対するプログラミング学習支援、ひとり親・生活困窮者への食支援、社会的養護施設入所・退所者の登録数、発達障がい者就労支援アクセス、子育て中の親（産前産後ケア）の参加を得ている。一方コロナ禍の長期化により、子育て世帯の支援のため予定していたイベント開催が中止・延期を余儀なくされた。オンラインによる支援を行うにも支援を受ける側のWi-Fiやモバイルが不足していることが分かり、活動内容を変更するなど対応した。社会的養護施設入所退所者の就労支援においては当初「退所者」を対象としていたが、より早く取り組むことで成果が得やすいため入所中からを対象とするなど状況に応じた対応を行っている。

III. 活動実績

資金支援

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
事業実施1年後、福岡県（九州）において、社会的孤立を防ぐための居場所づくりによる食支援、学習支援等が行われ、ひとり親世帯や経済的困窮家庭500世帯1,000名の子どもの心の貧困が解消され、学習機会が継続確保される。困難を抱える方100名に対するふれあい・交流、コミュニティ構築を通じて人が繋がる居場所と出番づくりを創出し、やりがいと希望を持って生活できる社会の実現のスタートアップが実現している。	食事提供、学習支援については、計画以上の水準を確保できる見込み。ふれあい・交流・コミュニティ構築については、広く実行団体の活動を周知するためFacebookページや広報媒体を活用している。また社会的脆弱性をもつ方々への支援が確実に届くよう実行団体の活動支援を行っている。

実行団体名	進捗状況	概要
NPO法人発達障がい者就労支援あしっぷ	ほぼ計画通り	全体として、ほぼ計画通りに進行しているが、オンライン企業スタディツアーのための取材がやや遅れている。また、コロナ禍の影響で取材を断られてしまうこともあった。引き続き、声をかけ取材をしていく予定
特定非営利活動法人チャイルドケアセンター	遅延あり	コロナの感染拡大により、緊急事態宣言が発令され、事業の遅延が見られたが、10月から各事業が開始できた。事業計画においてもコロナの感染拡大の状況により、対面とオンラインのハイブリッド方式で進めるように計画を立てていたが、実際には、オンラインが苦手な方やオンラインの環境が整っていない方が参加できていない。また、小さなお子さんがいる家庭では、カメラにお子さんが反応してしまい、オンラインでは参加しづらいという声も上がった。今後はオンラインの方法をレクチャーを組み込んだ方法も必要かと思われる。告知についても特に事業⑤の就労支援事業では相談希望者が少なかった。「就労相談」という言葉だけでは、すぐに仕事を始める人が受けるイメージが強く、子育て中の母親にはハードルが高い印象を与えたと思われる。
NPO法人国際教育支援機構スマイリーフーズ	遅延あり	現時点での企業登録完了率は想定24%（24社/100社）に留まります。背景としましては、事業開始後に行った企業並びに児童養護施設関係者、更には当事者となる支援対象者からのヒアリングを通じて都度事業内容の追加更新を行い、より実態に即した活動へと精査していくことができましたが、その分、出だしに時間を要してしまいました。更には開始直後に新型コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言が重なったこともあり、事業の趣旨や協力の取り付けに苦戦した事も要因として挙げられます。それでも、10月に入ってそれまでの地道なヒアリングと事業内容の更新が功を奏する形で表れ、協力者並びに協力企業が集まりだすようになりました。目標協力企業数に対する進捗は現時点で24%に留まりますが、事業内容の基盤を固め、今後の持続的な事業の活用及び発展性という観点においては、非常に重要な期間であったと感じています。今後はこの基盤をもとに当初の目標達成に向けて取り組んで参りたいと思います。

一般社団法人umau.	ほぼ計画通り	地域食堂は毎回90名ほどの食事を提供・配達実施している。 寄付の窓口については、多数の協力があり倉庫を新たに借りないと整理できない状態。新たな予算措置も検討中（予算獲得を目指す） じっかショップは現在4名の出展者と1月中旬に4名追加予定・べり屋も約12名の人たちがプラスの収入を得て、生活基盤の向上に繋がっている。
一般社団法人Kids Code Club	計画通り	福岡県で約240世帯、全国で約530世帯（のべ約2,070名）に放課後プログラミングクラブやイベント等とおして、プログラミング、ITリテラシーの学びの機会、居場所や交流の場などを提供。数値目標は概ね計画どおりではありますが、ITへの苦手意識や不安などが解消されていたり、今後もオンラインを活用した機会に参加できるような意識になっているかは、参加者にインタビューするなどして現在調査中です。成果を可視化するための評価指標づくりが今後の課題となっています。 ひとり親世帯・低所得世帯に関しては、支援団体との連携も進めています。PC・Wi-Fiの環境がない、親が家にいない、兄弟が多くて家では集中して学べない、といったケースも多く、支援団体の施設に集まってもらっての対面サポートから始めることになり、その分追加でリソースが必要となりました。しかし、先に学び始めた子が他の子どもを手伝ったり、団体スタッフの方もプログラミングを学んでサポートして下さったりと、低コストで実施するためのヒントも見つかっているため、今後の活動のモデルとなるよう他団体と連携しながら、引き続き進めてまいります。
一般社団法人 OMUTA BRIDGE	ほぼ計画通り	オンライン寺子屋活動は予定通り週に2回の定期開催が出来ている。専門職と学生サポーターが2名一組で対応しており、現状参加者のほとんどは不登校等の課題を抱えた生徒である。生産側の問題でタブレットの確保が困難な状況であるが、今後確保を進める。P R e I S活動は予定通り月に1回定期開催が出来ている。結果的に中学生女子生徒の参加となっており、コミュニケーションスキル向上やストレスマネジメント、生活する力を高めるための知識や経験を重視した活動内容で実施している。

非資金の支援（資金分配団体の伴走支援活動）

活動	進捗状況	概要
協議会【福岡の明日を創る！子どもの居場所・出番をつくる運営協議会】による審査委員会の開催	ほぼ計画通り	協議会体制での推進が有効であると認識している。
公募説明会の開催、集合研修の開催（事業開始時、事業終了前）	ほぼ計画通り	公募説明会、集合研修で事業への理解を醸成できている。
実行団体の組織強化（毎月の事業推進に関する相談、コンプライアンス・ガバナンス体制に関する助言、実行団体の運営相談、実行団体の組織運営への協力者・団体の紹介、行政その他公的機関及び地域団体との連携体制構築）による活動の事業化支援	ほぼ計画通り	毎月の事業推進に係る助言を通じて、全実行団体のコンプライアンス・ガバナンス体制の強化が出来てきている。 事業推進に係る人材の育成についての助言を通じて、助成金事業参画へのハードルを下げるべく努めている。
地域住民との関係強化（おやじの会、自治会、民生委員、PTAなどとの連携など地域組織との連携を図る）	ほぼ計画通り	地域団体との意見交換等を通じた連携推進中。
行政その他公的機関、協力団体との関係強化（関係機関との連携強化のための福岡県及び九州圏におけるネットワークの構築）	ほぼ計画通り	活動に興味を持った市町村担当者への周知、その他NPOボランティアセンターなど関連施設への活動周知などを行っている。
事前評価・事後評価（事業の必要性・妥当性確認支援、事業計画への反映支援）	ほぼ計画通り	ロジックモデルに基づいた自己評価を行っている。
広報・認知活動（SINKaからのプレスリリース、ネットワークを通じた情報発信、SNSを通じた活動内容認知度向上）	ほぼ計画通り	Facebookページ「九州ふくおかの明日を創る！子ども若者・困窮者の居場所・出番をつくる推進協議会」の開設運営を通じて、協力団体との連携がスタートするなどの成果があった。 福岡小学生新聞（15万部）への団体情報掲載では想定以上の反響があった。 定期的な情報発信を行うことで、確実に興味関心のある支援者層へのアプローチが出来ている。
出口戦略策定・事業化推進に関する助言（ファンドレイジングに関する専門家による助言・指導、事業化に係る企画調整に関する相談・助言）等による活動の事業化支援	ほぼ計画通り	継続的な助言等により、活動が継続できるよう助成金事業への申請等積極的な取り組みにつなげることが出来ている。
集団でのダイアログ、発表プレゼンテーションを通じたモデル事例化及び九州圏での展開を図る。	ほぼ計画通り	実行団体間での活動への理解も進み、事業終了後の協力関係構築について協議中。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述	
<p>実行団体との協働により、子ども若者、ひとり親世帯・困窮家庭、子育て中の親、養護施設入所・退所者、発達障がい者等に対し、食支援、オンライン学習支援、就労支援など多様な支援を実施している。</p> <p>社会的脆弱性を抱える方に対して、ふれあい・交流・コミュニティ構築により居場所と出番づくりにつなげられている。</p> <p>助成終了後の出口戦略へ向けて事業開始当初から実行団体への支援を継続して行うことで、休眠預金実行団体へ4団体が応募し、1団体が他助成金に応募している。また、NPO法人にあっては認定（認定NPO法人制度）へ取り組みを進めている団体もある。</p>	

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥0	¥30,000,000	¥30,000,000	¥14,638,371	49%
	管理的経費	¥0	¥5,226,000	¥5,226,000	¥3,600,240	69%
プログラム・オフィサー関連経費		¥0	¥600,000	¥600,000	¥73,780	12%
合計		¥0	¥35,826,000	¥35,826,000	¥18,312,391	51%
補足説明						

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>広報活動や組織運営に係る規程類整備とその運用などは推進できた一方で、事業推進を担う人材の育成も必要。資金調達は構造上すべての団体において常に課題である。活動継続はするものの「事業化」にはもう少し時間と人材を要すると思われる。</p>

VII. その他

自由記述
<p>休眠預金事業を体験したことで制度の全体像を把握できてきた。</p> <p>さらに九州地域の困っている人、課題は山積しており、各県団体との連携と情報交換をしながら九州地域での資金分配団体の可能性を探り、実行団体となりうる組織への広報を行い、よりよい九州の暮らしをつくるため資金分配団体としての活動を推進する。</p>

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	福岡小学生新聞令和3年11月号（株）フラウ）15万部
広報制作物等	有	プレスリリース
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。	はい	